へ13
3785
5

門 へ13
號 3785
卷 5

春新板

豐國門人
國麿画

錦重堂
上梓

應賀作
豐國画
上冊
倭文庫三編
釋迦八相

釋迦八相倭文庫三編の序

夫摩耶夫人の懷胎と諸佛結縁して安く天子の誕生ましまし忽ち天上天下唯我獨尊の形をつくれど天哉性哉血筋乃母親の母を深く慈養すと雖も三歳の出家と云されば輪廻弥の苦海も一時の懺悔ふ罪障消滅して悉達太子の詳始末定の祝ひを賀ず真如の眉ひらく光明景殿のらくらくきも一犬の虚ふ吼るを万賢の御見物遊ばし必実ふ傳へべくるべ

弘化三年
丙午の春新版

万亭應賀述

悉達太子
初て冠を着
優陀夷の女房

優陀夷
光明大臣

浄飯大王
月照殿の
轎雲弥ふ
通来
賜ふ
轎雲弥

三へんかつぎ

さるゑとふ
きやもま人
のざーあん
あんいつぎき
こらうとろ食
おきのいろうを
えるちみさ二タ
るぶれ
あまら
ぶ

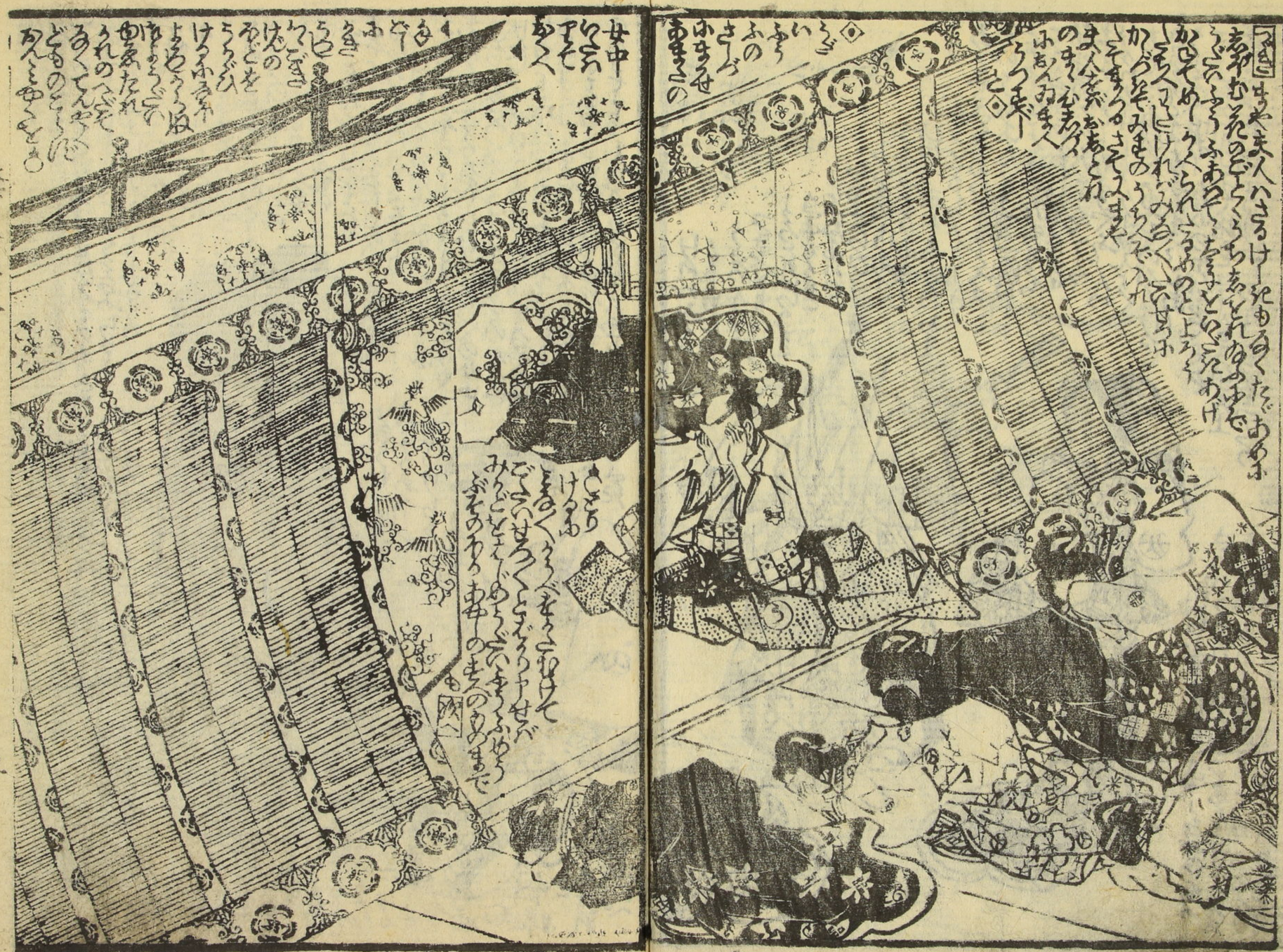
たいだいろう樹味の
たまをろうこちりわろう
ふんぺくとして考つそうの
考ろう出ものくやあるろう
んとおりふをろうろう人の味を
くきうけてたりのうきょうろ
をうとやみたまたんせうまく

けんびみどを
ちゆめちり
うぐのちうふ
つまぐも
よろうとびいさと
きもうろと
とふあ出の
あもとらひ
ざんふろのはあん
ひあうぶあ考とわあま
くうとうちとぶさん
あとやさきあつてまどる
そのうちふ今まで二流か
とんてくるとこのたちまち
ちんろきの彩りやとへせ
助徒どそのあをくぐて
たちとてドめまやふどんの
けがれをきうろふせんよく
あそ助ろびくもてのおりけ
さるゑ助とよちまかまてこあ
うーろうにあ考りのゆびゆそ天を
さーたのゆびゆそ地を
天下性我猫そ地ぐそんのかちをつくり
のひてうりたくぎそのひざふあんざまく

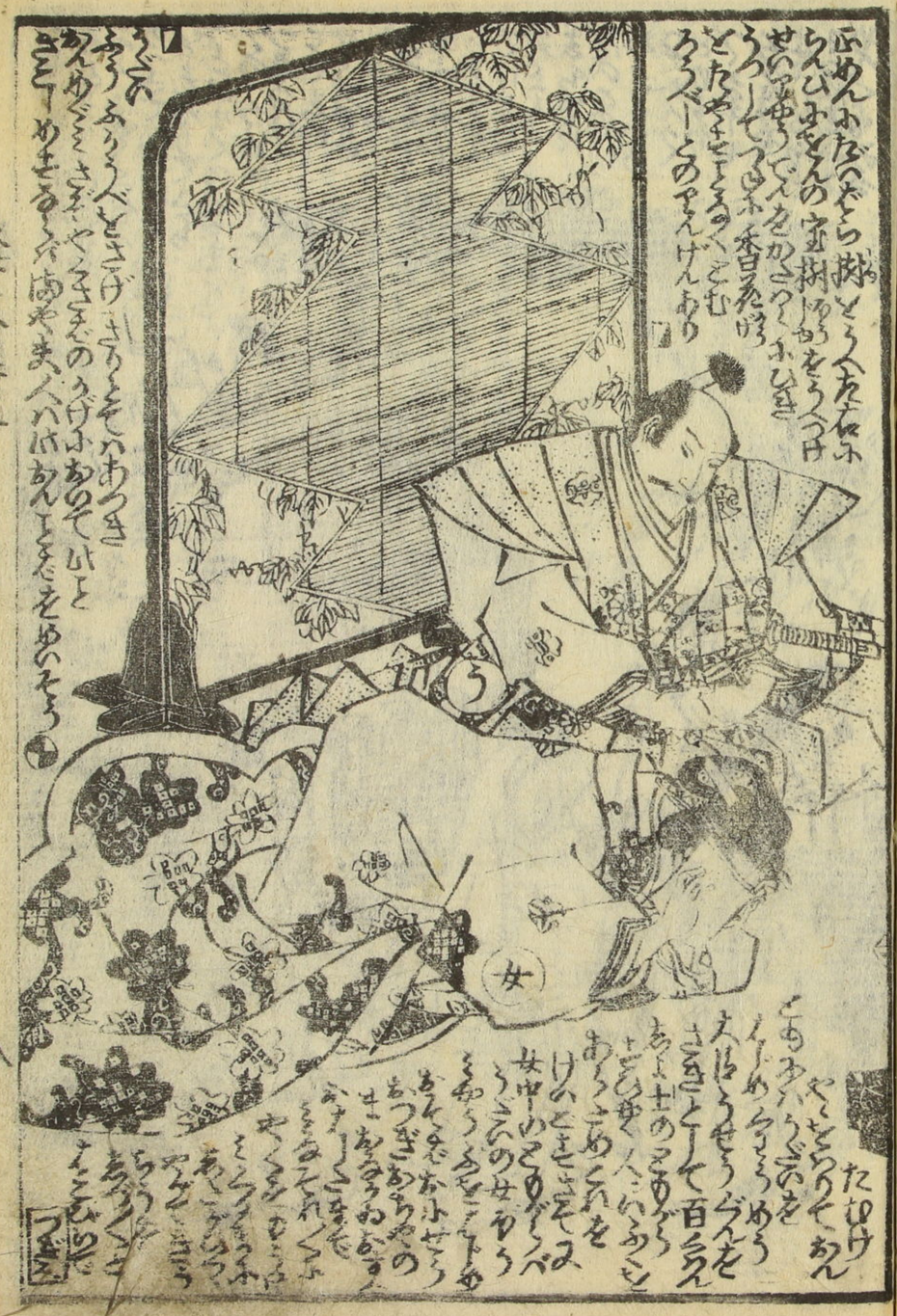
(女)

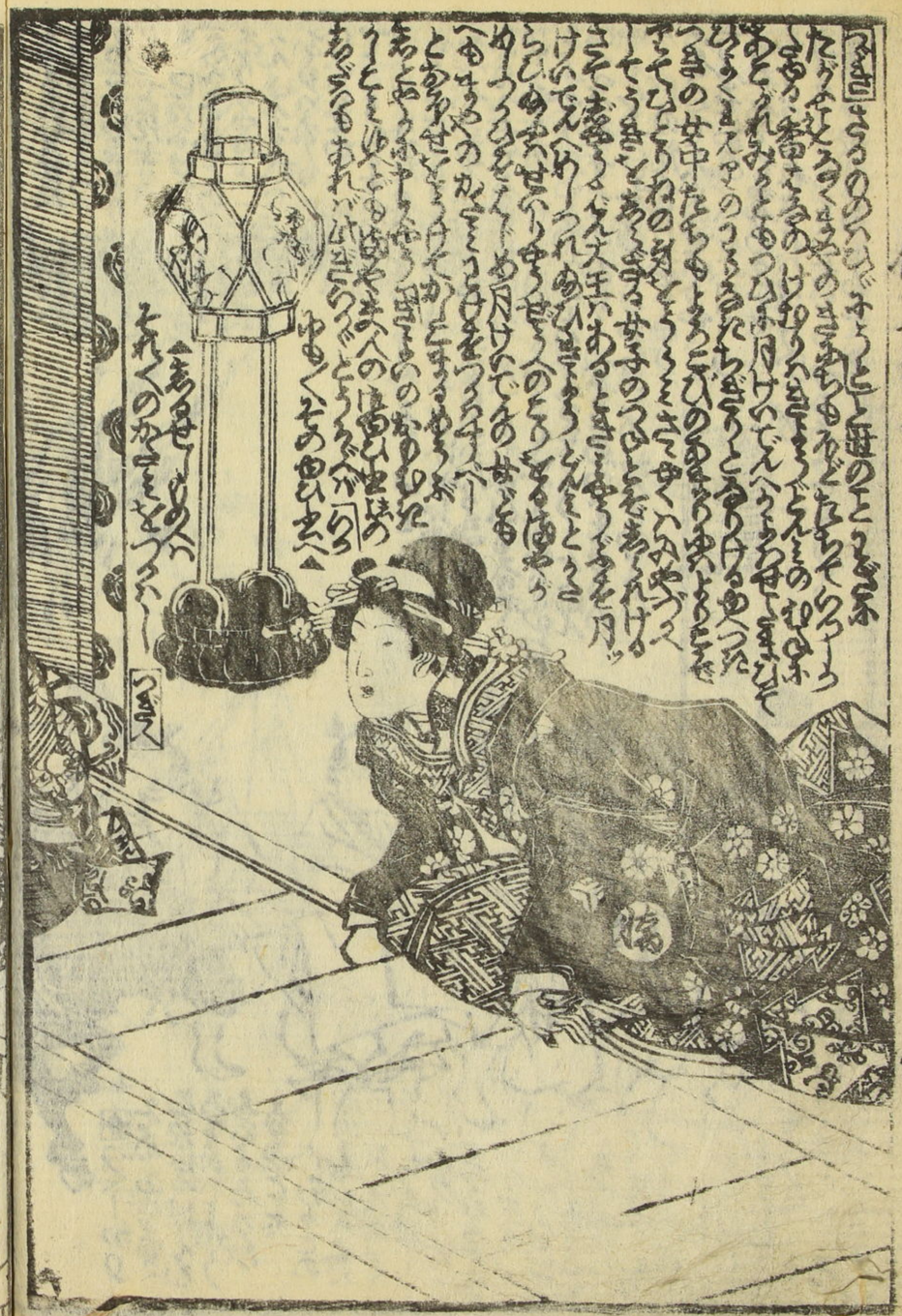
(十)

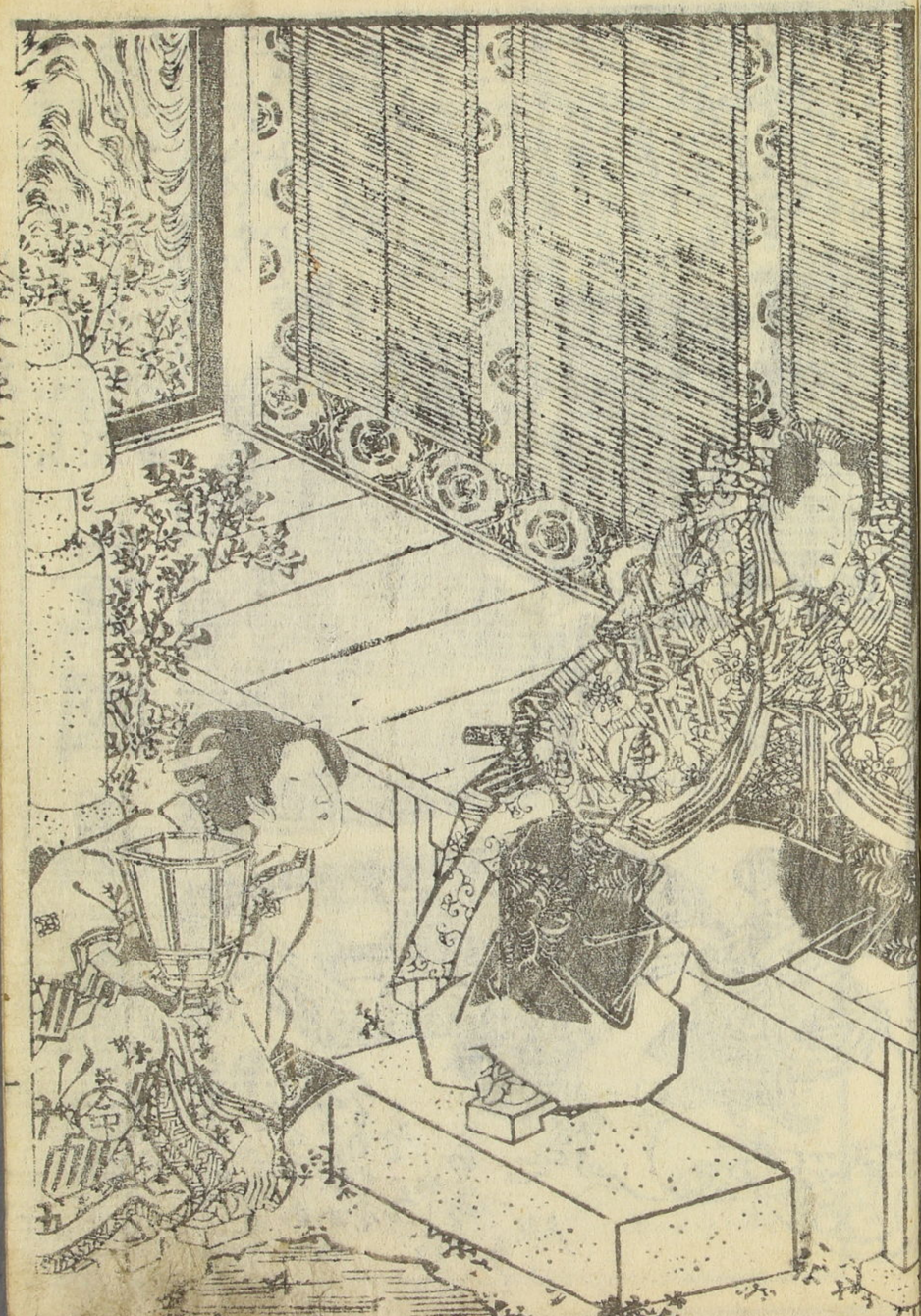
(十)ちぶさとかきさがーたづひなり
さればうまれのうぶごゑをきくことあら
もんでの女のさんわかくてはこのくる
ちくもうまれぐちろうづうあ考れと



浄


女


つきの
さるのしたいひ
たりかたくるくるのさまちもそどたちそらつーつ
しまり番さるのけりつへさまくどえこのひかふ
あとうれみとともつひふ月けのでんへうろわ
ひうくまんかのうろうたちぎうとうりけるあつた
つきの女中たちもよろこびのあまりあよりとを
さそひとりねの月とうくくさせくらのやづく
しそうきとあくまる女子のつひとをあくれけ
さそ表くどえ大王いあるとさーやうぐを月ッ
けのでんへめーつれのひきうとんこととう
らしめたせいりやうせうへのとりそるはやう
やつろひをくじめ月けのでんの女じる
へもまるのかこうひをつろすへ
とるりせとうけてかとするやうぶ
あるやうふやうやうきこのなりひた
うとこしゆとものはそまへの月ひせはの
あるぶるもれいがひきらうぐとうぐが「ろう
ゆもくそのあひせへ
あるせーしめへ
たれくのかこをつろ
つきの



嘉永八年乙卯春新板目録

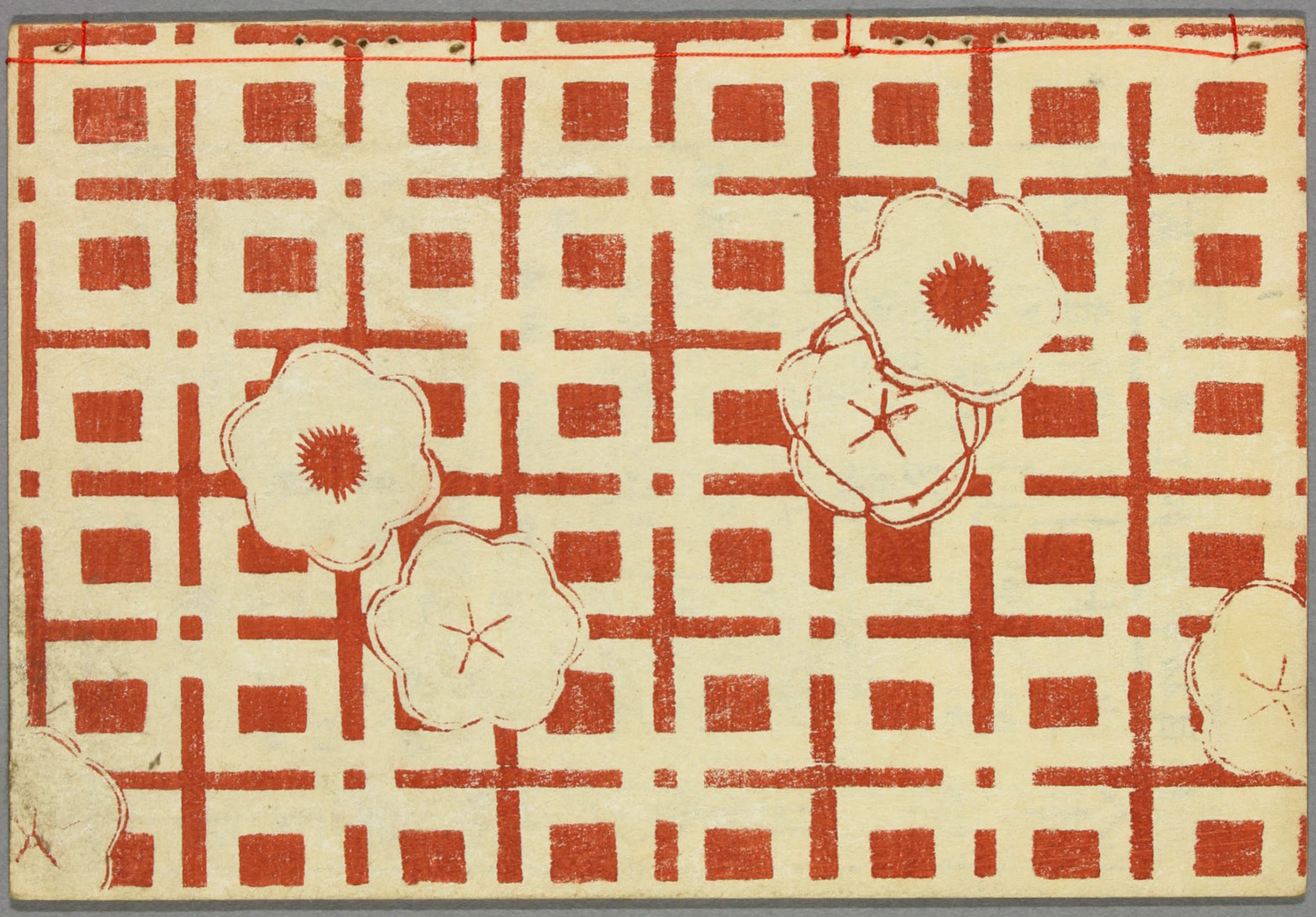
倭文庫 三十編 三十一編 三十二編 三十三編 乃亭應賀作 一陽齋豐國画

重の井菱染別小紋 四編 為水春水作 五編 同

昔語小栗實説 一編 松亭金水作 三編 同

花山吹百人女郎 初編 柳亭種彦作 二編 同

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編

〈重 繪艸紙本類 人形門 上州屋重藏